

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
東放学園音響専門学校		平成3年4月1日		酒井 努		〒 151-0071 (住所) 東京都渋谷区本町4-20-7 (電話) 03-3299-7981			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人 東放学園		昭和54年4月1日		斉藤 晃		〒 168-0063 (住所) 東京都杉並区和泉2-4-1 (電話) 03-3378-7538			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度	
工業	工業専門課程	音響芸術科		平成 6(1994)年度		-		令和 3(2021)年度	
学科の目的		エンターテインメント業界において、音に関わるビジネスシーンで活躍できる業界人を育てる。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		情報処理検定、ビジネス著作権検定、ネットマーケティング検定 中退率:5.1%							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		1,700 単位時間	1,170 単位時間	150 単位時間	645 単位時間	- 単位時間	- 単位時間
				- 単位	- 単位	- 単位	- 単位	- 単位	- 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)					
180 人	163 人	8 人		5 %					
就職等の状況	■卒業者数(C)		85 人						
	■就職希望者数(D)		77 人						
	■就職者数(E)		71 人						
	■地元就職者数(F)		1 人						
	■就職率(E/D)		92 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		1 %						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		84 %						
	■進学者数		1 人						
	■その他								
	(令和 5 年度卒業者に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報)								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無						
	※有の場合、例えば以下について任意記載								
当該学科のホームページURL	https://www.tohogakuen.ac.jp/onkyo/arts/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数		1,965 単位時間						
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		435 単位時間						
	うち企業等と連携した演習の授業時数		90 単位時間						
	うち必修授業時数		720 単位時間						
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		60 単位時間						
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		60 単位時間						
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間						
	(B: 単位数による算定)								
	総授業時数		- 単位						
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		- 単位						
	うち企業等と連携した演習の授業時数		- 単位						
	うち必修授業時数		- 単位						
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		- 単位						
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		- 単位						
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		- 単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		7 人				
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		11 人				
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		2 人				
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		2 人				
	計				22 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				22 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

高度な実践力や意欲の発揮に欠かせない人間性や自立心を育み、環境や技術等の変化が著しい当該業界において順応力を持った人材を輩出するために、①学生が享受すべき知識や技術について、連携企業との日常的なコミュニケーション・意見交換を通じて、教育課程の編成や教育環境の構築に関して、積極的に反映させる事。②就職先ともなり得る連携企業に所属する社員を講師として招聘し、実習・演習授業において実利性・専門性が高いカリキュラムを構成する事。以上を、企業等との組織的な連携の基本方針としている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校長を委員長とし、以下、教務教育部長の他、学科運営を主たる業務とする学科主任を学内の委員とし、学科が委嘱する業界企業の方と業界関連団体に所属し、実践の環境を熟知し、あるいはそれらを俯瞰し統括する立場の方を学外の委員として構成している。
学外委員からは専門分野に関わる人材の育成に有用なご意見や改善点、新たな施策を提示して頂き、当該業界の動向や変化等について、学内委員からは学事や学生の動向等について意見交換を行い、積極的な情報共有を図る。また、カリキュラムのあり方や授業の構成について、同業界において求める人材像や育むべき人間性や実践力について等、これらの具体的要件に関しても意見交換や議論を行い、教育課程決定の基とする場として位置付けている。

当委員会の内容は、学内委員により学科毎に実施されているカリキュラム会議で発議がなされ、学科担当職員との意見交換を経て、重要度の高い項目等から教育課程の編成に取り入れられる。反映された項目は、次回以降の同委員会にてフィードバックがなされ、今後の会議運営に役立てる事とする。以上を教育課程の編成に関する意思決定の過程としている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日

名 前	所 属	任期	種別
二木 徹	一般社団法人 日本ポストプロダクション協会 技術委員会委員長(兼)基準小委員会委員長 株式会社音響ハウス オーエスキューブ事業部門 統括部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	①
木嶋 隆	株式会社 チッタワークス 代表取締役社長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	③
酒井 努	東放学園音響専門学校 校長		－
和田 一夫	東放学園音響専門学校 教務教育部 部長		－
佐野 僚	東放学園音響専門学校 音響芸術科 学科主任		－
小山内 宙	東放学園音響専門学校 学務管理部 部長		－

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (10月・12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年10月17日 18:10～19:40

第2回 令和5年12月7日 14:00～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

各委員からの提案内容や委員会での決定内容等に関しては、各学科の担当職員を中心に構成されるカリキュラム会議等において、次年度以降の教育課程の編成や、当該年度の授業内容に具体的に反映させている。

【当該学科への意見・改善案等(抜粋)】

- 意見等①:業務はPCがマスト。イラストレーター・フォトショッブ・ProToolsが使用できると良い、PC関連の授業をしっかりと受講し、入口のみでも身に着けておくと良い。
- 改善点①:募集案内に入学時にPCを所有していなければならない旨を明記した。PC系の授業を継続して進めるとともに、内容についても今後、拡充していく。
- 意見等②:SNSは入社後の若いスタッフだからこそ出来る仕事の一つにもなってくる。文章一つにおいても感性が違ふ為、SNSの活用方法について詳しくなることが大事。
- 改善点②:「SNSマーケティングⅠ」「SNSマーケティングⅡ」を継続しながら、スキルが高められるよう進めていきたい。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

①エンタテインメントの分野において、音に関わる全ての業界スタッフの人材育成を行うこと。音響・音楽業界に必要な幅広い知識、技術を養い、創造性豊かな人材（業界人）を輩出することで広く社会に貢献すること。本科において以上の目的を達成するためジャンルに捉われず高い技術力や広範囲に渡り業務を行なっている企業を選定していること。
 ②音の関わる分野で探究心旺盛で、常に努力を怠らず人を大切に思う心を持つ人材、専門知識や技術を持ち、求められた以上の成果を出すための努力をする人材を育成出来る企業を選定すること。
 ③業界ニーズに合わせ、音楽・音響業界（企業）と協調した実習プログラムを取り入れる。また社会性を身につけるための科目を実施する。
 以上3項目を、企業等との連携に関する基本方針としている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科では、コンサートおよびイベント制作全般に関して、卒業後の就業時に現場で対応出来る知識を身につけるための実習授業を実施している。各分野の職種や業務に従事している企業と連携し授業を担当いただき、学生の理解度に応じたトレーニングを施しながら、指導内容の習熟度や関連知識の理解度等を勘案しながら学修成果の評価を実施している。
 1年次前期ではコンサートやイベントに不可欠な制作の仕事を学び、業界全体の仕組みを理解するとともに、スタッフワークの基礎を身につけることを目的とした実習科目を設置している。
 また、連携企業や外部講師を招聘し、学科担当職員・就職担当職員との懇談の場である講師会を実施。意見交換と情報共有を図り、各担当授業のシラバスや具体的な実習内容を検討したり確認したりしながら、教育課程の充実と教育内容・学校職員の質向上に努めている。
 上記会議体のみならず、連携企業や協力いただいている外部講師とは、定期的に当該現場の動向や変化、学生の資質等の情報を交換しながら、細やかな話し合い・コミュニケーションを通して、上記主旨同様の効果を図るための対策を常に施している。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
コンサートビジネス	コンサート業界の仕組みを学び、イベント制作の流れを実践経験を交えながら理解する。	株式会社 ディスクガレージ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校では「東放学園 教員研修規程」として教員研修の目的、方針、教員の責務、報告などの事項を定めており、教員の業務経歴や能力、担当する授業科目等に応じ、専攻分野の実務に関する知識、技術、技能並びに、学生に対する指導力等、教員の能力及び資質等の修得・向上を図るため、適宜、企業等と連携した研修を行うことを基本方針としている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	変化する社会に求められる人材の傾向と分析	連携企業等：ベネッセ
期間：	令和5年9月20日（水）	対象：音響芸術科教員
内容	・企業の採用経験者が示す学校教育の強化ポイントとは ・変化する社会に求められる人材の傾向と分析 ・社会の変化が及ぼす教育への影響 ・企業への実態調査の報告	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	能動的学習の指導方法～教員が教える学習から、児童・生徒が自ら考える学習への転換～	連携企業等：東京都私学財団
期間：	令和5年11月13日（月）	対象：音響芸術科教員
内容	①「個」に応じた指導を創る。 ②5つの個人差：到達度、学習時間、学生適性、興味・関心、生活経験 ③自己教育力（自ら学ぶ子）の育成をめざす ④できない子をどうするのか ⑤コアカリキュラムについて ⑥ついていける子とついていけない子の違いをどうするか。 ⑦何を子どもに譲るのか。何を伸ばすのか。 ⑧子どもが課題選択を行うために。 ⑨課題がバラバラの場合での評価方法	

(3) 研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名：	2024年国際放送機器展(Inter BEE 2024 幕張メッセ)	連携企業等：一般社団法人 電子情報技術産業協会
期間：	令和6年11月13日(水)～15日(金)	対象：音響芸術科教員
内容	内容：音と映像と通信のプロフェッショナル展視察、セミナー受講 等 ■セミナー受講については情報公開され次第計画	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名：	合理的配慮の提供における学校の取り組みとは	連携企業等：公益財団法人 日本ケアフィット共育財団
期間：	令和6年9月17日(火)	対象：音響芸術科教員
内容	・障害者差別解消法とは(合理的配慮とは?) ・合理的配慮提供の流れ ・合理的な配慮の実例(障害にあわせた授業例)	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- 1) 教育の一層の充実を図り、学校の目的及び社会的使命を達成するため、各校における教育活動等の状況について定期的に関係者評価を行い、随時改善を図ることを目的とする。
- 2) 学園は充実した学校評価制度の構築に努め、各校・各部門はこれを実施する体制を整える。
- 3) 各校・各部門は、情報公開を念頭に掲げ、より高い基準を設定し関係者評価を実行する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	使命、行動指針、教育方針、理念、目的、育成人材像
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事・給与制度、意思決定システム、情報システム
(3) 教育活動	目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、資格・免許取得の指導体制、教員・教員組織
(4) 学修成果	就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、卒業生・社会対応
(6) 教育環境	施設・設備、学外実習、インターンシップ等、防火・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
(8) 財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	関係法令・設置基準の遵守、個人情報保護、学校評価、情報公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献の取組み、ボランティア活動の取組み
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

委員会での結果を活用し、教育活動及び学校運営の質の保証と向上に継続的に努めるための改善措置を随時行っている。委員の意見やアドバイスを尊重し「即対応」「計画的対応」などを検討し、可能な限り改善を行っている。(カリキュラムの改革、機材の購入、教員のスキルアップ等)
【意見】学生の特性を尊重しそれを活かす職業選択指導、という視点が理念や方針レベルで必要な時代であり学生が満足するために、どのような指導をしていくべきか教職員の自立も必要になっている。

【改善策】学生の主体的な取り組みに向けた勉強方法について、教職員のSTEAM教育そのものと、その教育手段で扱われるひとつとしてハイブリッドによる教育について理解を深める必要がある。そのために、研修への参加を促し情報を収集し授業改善に向け取り組む。

【意見】社会や地域との関わりをエンタメの学校として今後も多角的にと取り組んでほしい。地域イベントやFESでの学生の経験の場をもっと増える仕組みを作れたらより選択肢が増えると思いました。地域との交流だけでなく地方の業界の状況を知るきっかけや全体のベースアップに繋がる動きになると学校としての新しい可能性も生まれると思います。

【改善策】教職員の意識を高めるような施策を検討し、社会性や視野を広げるための研修を実施する。可能な限り近隣住民にも本校の教育内容を理解してもらうべく、これまで以上にコミュニケーションの場を設けていく。

【意見】学校パンフレットの授業案内を見ても、音楽の知識がないと分かりにくく、分からない用語が続くと苦手意識が出てきてしまい、読むのをやめしてしまう。他校の案内では、業界で必要なシステムがあることからはじめ、必要性を理解させた上でシステムの説明を行っているため、理解がしやすい。

【改善策】入学希望者や保護者、高等学校・日本語学校の教員など、それぞれのニーズに合ったわかりやすい資料作成に努める。また紙媒体からインターネット媒体などへの移行を進めるとともに、新たなツールやイベントの検討も進める。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
佐久間 義彦	学校法人東放学園 元理事 東放学園専門学校、東放学園音響専門学校、元校長 一般社団法人 日本ポストプロダクション協会 顧問 一般社団法人 全国放送派遣協会 顧問 前専務理事	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	教育・学校運営に関する有識者
田山 順一	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 常務理事	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	就職先及び関連業界関係者
片桐 慶久	都立向丘高等学校 主幹教諭	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校教諭
高橋 堅太	Be-U 株式会社 代表取締役CEO 2011年 音響技術科卒業	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生(企業等委員)

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.tohogakuen.ac.jp/about/valuation/>

公表時期: 令和6年5月

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

認可された教育機関として、社会への説明責任を果たすとともに、教育の質保証・向上の観点から、学生、保護者、地域住民、関連業界企業等に教育活動や学校運営の状況に関する情報を提供する。また、同窓会組織や東放学園キャリアサポートセンターと連携を図り、卒業生や企業等から積極的に意見を聴取して、業界のニーズを反映した教育環境の整備や教育課程の編成に努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	基本理念、使命、行動指針、教育方針、学園概要、沿革、お問い合わせ
(2)各学科等の教育	募集学科、募集定員、出願資格、学科紹介、学びのポイント、おもなカリキュラム、資格取得
(3)教職員	学園概要(校長名、教員数)
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職・デビュー支援
(5)様々な教育活動・教育環境	部&クラブ活動紹介、機材・設備
(6)学生の生活支援	学生寮
(7)学生納付金・修学支援	学費、奨学制度・教育ローン
(8)学校の財務	情報公開(財務情報)
(9)学校評価	情報公開(自己評価報告書、学校関係者評価報告書)
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.tohogakuen.ac.jp/about/philosophy/>

公表時期: 令和6年5月

授業科目等の概要

#REF!																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1			○	音響基礎実習	音響機材やレコーディングスタジオを使用し、技術スタッフの役割や関係性を理解する。	1 後	45				○	○		○	○	
2			○	ライブ制作実習	ライブイベント制作を運営するために必要な基礎知識を身につけ、外部会場でイベントを企画・運営する。	1 後	90				○	○	○	○		
3			○	出版制作実習	雑誌や書籍が出来るまでの過程を学習し、企画立案から原稿執筆、校正までを実践する。	1 後	45				○	○			○	○
4	○			Webコンテンツ制作Ⅰ	コンピューターを使用し、オリジナルWebサイトが制作できるようにする。	1 前	30				○	○			○	
5			○	ProTools実習	音楽制作ソフトProToolsを使用し、簡単な波形編集を理解する。	1 後	30				○	○		○		
6	○			Illustrator実習	デザインソフトIllustratorを使用し、操作や技術を学び、基本的なデザイン知識を身につける。	1 前	30				○	○			○	
7	○			SNSマーケティングⅠ	趣味ではなくビジネスでSNSを活用できる人材を目指す。	1 前	30			○		○			○	
8	○			SNSマーケティングⅡ	SNSを活用した戦略的、実践的なノウハウ、マーケティングを学ぶ。	1 後	30			○		○			○	
9	○			音楽業界概論	現在の音楽ビジネスの基本を理解し、新しいビジネスを構築するための知識を学ぶ。	1 後	30		○			○			○	
10	○			ビジネス著作権	音楽を中心とした著作権の知識を学びながら、ビジネス著作権検定 初級の合格を目指す。	1 後	30		○			○			○	
11	○			コンサートビジネス	コンサート業界の仕組みを学び、イベント制作の流れを実践経験を交えながら理解する。	1 前	30		○		△	○		○	○	○
12	○			オーディオ基礎	音響エンジニアの役割を理解し、音についての感覚を養う。	1 前	30		○			○		○		
13	○			ステージ制作論	舞台制作に必要な基礎知識と、ステージ上でセットを組み上げる作業を学ぶ。	1 通	60		○	△		○			○	

14			○	テレビ番組論	テレビ番組に係わるスタッフとその仕事内容を理解し、プロダクションと音楽業界のつながりを理解する。	1 前	30		○			○			○	
15			○	業界特別講座	音楽業界で活躍しているプロを招き、講義を行う。	1 後	30		○			○		○	○	
16			○	ライブスポットリサーチ	小～大規模コンサート会場の特徴を理解し、コンサートを開催するまでに必要な知識を身につける。	1 後	30		○			○		○		
17			○	Musicman I	音楽理論と作詞の基礎を学び、楽曲の理解を深める。	1 後	30		○			○			○	
18			○	マーケティング	マーケティングの基礎を学びながら、ネットマーケティング検定の合格を目指す。	1 前	30		○			○			○	
19			○	アーティストマネージメント論	マネージメントとは何かを理解しディスカッションを通しコミュニケーション能力を磨く。	1 前	30		○			○		○		
20	○			就職講座 I	就職活動における心構えを考え、基本的な履歴書を作成できるようにする。	1 前	30		○			○		○		
21	○			就職講座 II	業界を研究し、企業とのやり取りを学びながら、社会人マナーを学ぶ。	1 後	30		○			○		○		
22			○	特別講座 I	エンターテインメントを実際に見ることで、自身の可能性や感性を刺激し、仕事への意識を高める。	1 通	30		○			○	○	○	○	
23			○	スキルアップゼミ I	学校行事のスタッフとして参加しコミュニケーション能力を向上させ、実戦的な経験を通して技術と対応力を学ぶ。	1 通	30	2		○		○	○	○		
24	○			舞台安全対策講座	舞台上で安全に作業するための技術と知識を学ぶ。「足場の組み立て等特別教育」「フルハーネス型墜落制止用器具特別教育」の取得を目指す。	1 後	15	1	○		△	○		○		
25			○	J-POP&邦ロック史	日本で起きた音楽ムーブメントと、その中心にいたそのアーティスト群を理解する。	1 前	30		○			○			○	
26			○	音楽理論	音楽の基礎知識を学び、読譜力を習得する。	1 前	30		○			○			○	
27			○	Windows Office入門	Microsoft Officeを使用し、文章編集やプレゼン資料、表計算の基本を習得する。	1 前	30			○		○			○	

28		○	ビジネスマナー講座	社会人に必要となるビジネスマナーを学ぶ。	1前	30		○			○			○	
29		○	英会話	英語のコミュニケーションを身につけ、日常生活や仕事で使える英語を学ぶ。	1後	30		○			○			○	
30		○	アニメ音楽史	日本のアニメ音楽の歴史をたどり、現在に至るまでの音楽遍歴を学び、新しい音楽制作に結び付ける。	1前	30		○			○			○	
31	○		卒業制作	2年間の集大成として、音源制作やライブイベントの企画・制作・運営・宣伝を全て行う。	2通	##					○	○	○	○	
32		○	Webコンテンツ制作Ⅱ	WordPressを使用し、ホームページをゼロから作成し、基本的な機能を学ぶ。	2後	30					○	○			○
33		○	MusicmanⅡ	音楽ディレクションを学びながら、相対音感を身につける。	2前	45					○	○			○
34		○	アートディレクション&デザイン	デザインのポイントを理解し、ディレクションできるようにする。	2前	45					○	○			○
35		○	ミュージックビデオ制作	作品制作を通じて企画、構成、撮影、編集を体験し、チームワークとスキルを向上させる。	2後	45					○	○			○
36	○		音楽著作権	音楽ビジネスにおける様々な権利の運用方法や作品・作家の保護について学ぶ。	2後	30		○				○			○
37	○		プロモーター論	様々なプロモーター各社からゲストを招き、現場の仕事や役割について解説を行う。	2前	30		○				○		○	○
38		○	オリコン講座	オリコンの業務を知りながら、Web・SNSにおける最新のトレンドや今後の展望についての講義。	2前	30		○				○			○
39	○		エンターテインメント業界Ⅰ	VOCALOIDソフトを使用し、YouTubeにアップロードできる音楽・音響・映像制作を目指す。	2前	30		△			○	○		○	
40	○		エンターテインメント業界Ⅱ	VOCALOIDソフトを使用し、YouTubeにアップロードできる音楽・音響・映像制作を目指す。	2後	30		△			○	○		○	
41		○	ファンクラブビジネス	ファンクラブ業務を理解しモノづくりの楽しさとやりがいを見つけアーティストの支えになる知識を習得する。	2前	30		○				○		○	
42		○	コンサート・イベント論	コンサート、イベントの現在と過去を学び、魅力を伝えるための発想力を身につける。	2後	30		○				○			○

43			○	ミュージックシーン研究	ヒット曲が生まれた背景を学び、ブームのメカニズムや分析を行うことで、将来の音楽制作の力としていく。	2後	30		○			○			○				
44			○	ザ・サウンドプロデューサーズ	世界で活躍する音楽プロデューサーを題材に学習し、音楽と音響の知識を広げる。	2前	30		○			○			○				
45			○	プロダクション&ビジネス	音楽制作からコンサート演出までをアーティストの意見を取り入れながら具現化する力を養う。	2後	30		○			○			○				
46			○	デザイン概論	デザインに関する基本的に知識とテクニックを学びながら、クリエイターとしての心構えを身につける。	2後	30		○			○			○				
47			○	マネージャー実践講座	ワークショップ形式を中心に、業界のマネージャーに必要な知識とスキルを学ぶ。	2前	30		○			○			○				
48			○	動画制作&配信	映像制作の基礎を学び、ビデオスイッチャーなどを使用しながら、作成した動画をインターネット配信できるようにする。	2前	30				○	○			○				
49	○			就職講座Ⅲ	就職活動における準備を進め、ビジネスマナー、社会人としての常識を学びながら進路決定を目指す。	2前	30		○			○			○				
50	○			フォローアップゼミ	就職活動における準備を進め、ビジネスマナー、社会人としての常識を学びながら進路決定を目指す。	2後	30		○			○			○				
51			○	特別講座Ⅱ	エンターテインメントを実際に見ることで、自身の可能性や感性を刺激し、仕事への意識を高める。	2通	30		○			○	○	○					
52			○	スキルアップゼミⅡ	学校行事のスタッフとして参加しコミュニケーション能力を向上させ、実戦的な経験を通して技術と対応力を学ぶ。	2通	30	2		○		○	○	○					
53			○	舞台機構調整技能士対策講座	国家検定である「舞台機構調整技能士（音響）3級」の合格を目指し、筆記・実技・判断について対策を実施。	2前	15	1	△			○	○		○				
54			○	スコアリーディング	音楽理論からステップアップし、音楽的な一般教養を学ぶ。ドラム譜の読譜力を身につける。	2後	30		○			○			○				
55			○	楽器論	楽器のテクニシャンに必要な知識を実際に楽器を触れながら理解し、特性や仕事について学ぶ。	2前	30		○			○			○				
56			○	ポップスアナリーゼ	ポピュラー音楽を題材に、楽曲の仕組みを理解し、楽曲を解説できるようにする。	2後	30		○			○			○				
合計					56 科目				1965 単位時間（単位）										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	期日までに学費納入し、必修科目を含む、年間800時間以上、卒業時1700時間以上の取得で修了認定	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：	初回の授業（ガイダンス）で内容を確認し、期日までに履修科目の登録を行う	1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。